

バイオビジネス人類学特論 (2単位)

担当者氏名 富田祥之亮

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

バイオビジネスの基礎となる食と農は国、民族、地域の文化を構成する基本的要素である。人類の食と農の多様性をどのように把握するかは、研究にとっても新しい知見を創造する源泉でもある。本講義では①人類学の学問的基礎、②アプローチの方法、③食と農の文化的差異、④食と農の地域社会・コミュニティでの展開方向、⑤環境と文化、⑥人類学的視野にたった村落開発、⑦人類学的フィールドワーク論について研究を進める上での関連諸理論を援用しながら、学生諸君と議論をしながら講義を行う。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

<u>フィールドワーク</u>	<u>文化の嗜好性</u>	<u>文化相対主義</u>	<u>環境と資源</u>
<u>ディープエコロジー</u>	<u>民族植物学</u>	<u>厚生経済学と人間開発</u>	<u>生活農林業</u>

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	人類学とは (2回)	・人類学の諸理論の簡易的な紹介	
2			
3	環境と資源: その主観的存在	・異なる環境、その中で資源という認識の文化的差異について学ぶ	大学院生がフィールドに出てデータ収集(調査を含めて)する際の手法を多くのフィールドワークの結果から学んで新しい知見の発見が可能となるようにどうしたらよいかについて講義を通じて大学院生との意見交換により進めていく。人類学的な認識方法を研究の際に有効になることをねらう。そうした点を踏まえ、授業の初回に配布する文献集をよく読み、理解したうえで参加する。
4	狩猟採集民の暮らし	・最も簡素な暮らしを営む狩猟採集民の食と暮らしについて学ぶ	
5	ネパールの食と農	・フィールドワークデータからネパールの食と農について学ぶ	
6	生活農林業という考え方	・フィリピン島嶼部の暮らしから生活農林業という概念を習得する	
7	(2回)		
8	生活資源カタログ調査	・参与的なフィールドワークの手法の一つとして学ぶ	
9	フィールドワーク論(2回)	・人類学の基礎であるフィールドワークについて概説する	
10			
11	ディープエコロジーと環境	・運動としてのエコロジー論と人類学のかかわりで検討する	
12	(2回)		
13	村落開発と人間開発(2回)	・人間開発と参加的開発について検討する	
14			
15	まとめ	・まとめ	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)

(基本的な文献集: 英語文献を PDF ファイルとして配布する)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)

(配布する文献集をあてる)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

授業での参加態度とレポートによって評価する

◆オフィスアワー

金曜 2 限

◆その他受講上の注意事項

研究は新しい知見をどのように得るかである。人類学アプローチは既存の学問とは異なることが多く、こうした講義などから新しいアプローチを自ら身につける態度で出席してほしい。
